

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

## sanbi-i-com (No.156)

## ユニバーサルデザイン (3)

## 「赤文字で強調」について

文書の中で特定の文字を強調する方法はいくつかありますが、「文字を赤くするだけ」というやり方だと、強調の意図が伝わらない場合があるため、ユニバーサルデザイン(UD)になりません。

## ■ 赤と黒は色弱者には見分けにくい

カレンダーの例で見てみましょう。土曜、日曜と祝日(3日と23日)を赤くして平日と区別します。

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

(1) これが色弱者にどのように見えるかをシミュレートしてみます。以下はP型(色弱者の約25%を占める)のシミュレーション結果です。ご覧の通り、土日祝日と平日を見分けるのが難しくなっています。

## &lt;赤と黒：シミュレーション結果&gt;

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

(2) 試しにもっと濃い赤を使ってみます。

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

これもP型でシミュレートしてみます。濃い赤だと以下のように更に識別しにくくなります。

## &lt;濃い赤と黒：シミュレーション結果&gt;

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

## ■ 白黒印刷すると見分けにくくなる

ビジネス文書、特に社内文書のプリンタ出力、コピーの基本は白黒です。「(たとえカラーが使われている文書でも)出力はできるだけ白黒にしましょう。ムダなカラー印刷はやめましょう」というのは、どこの会社でもよく耳にするありふれた方針です。カラー印刷、カラーコピーを原則禁止としている会社もあります。

理由はもちろん経費節減で、カラーと白黒ではコストに大きな差があるからです。

文書の作り手にしてみれば「赤文字を入れたのだからカラーで印刷すべき」と思うでしょうが、経費節減の方針の下で、赤文字入りの文書をあえて白黒で印刷することは珍しくありません。

先のカレンダー(最初の濃くない赤の方)を白黒で印刷してみると、右のような色になります。どこが祝日なのか、色弱者のみならず一般色覚者にも分かりにくくなってしまいました。

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

## ■ 色以外の強調方法を使う

だからと言って、文字を赤くしてはいけないという訳ではありません。一般色覚者にとっては、目立つ色である赤の使用は、文字の強調に大いに役立ちます。ただし、それだけだと上述のように強調の意図が伝わらない場合があるので、UDにはならないのです。

「赤ではなく、白黒印刷しても黒との違いがはっきりする別の色で強調すれば良いではないか」と思われるかもしれませんが、黒との違いがはっきりする薄いグレーの元の色は、明度が高い色＝薄い色＝目立たない色なので、強調にならないでしょう。

赤を別の色に変えることを考えるよりも、以下のような色以外の方法、色に頼らない方法を使うのがUDへの近道です。

### (1) アンダーライン(下線)を引く

例: この文の中のここを強調したい。

### (2) 網掛けする

例: この文の中のここを強調したい。

### (3) 太字にする

例: この文の中の**ここを強調**したい。

### (4) 斜体字にする

例: この文の中の*ここを強調*したい。

### (5) 書体を変える

例: この文の中の**ここを強調**したい。

\*明朝体の中の**ゴシック体**は目立ちます。

### (5) + (3) ゴシック体の所を太くする

例: この文の中の**ここを強調**したい。

以上の各方法に赤文字強調も加えると、以下のようになります。

(1): この文の中のここを強調したい。

(2): この文の中のここを強調したい。

(3): この文の中の**ここを強調**したい。

(4): この文の中の*ここを強調*したい。

(5): この文の中の**ここを強調**したい。

(5) + (3): この文の中の**ここを強調**したい。

書籍の本文を黒と赤の二色刷りにすることはよくありますが、手近にそのような本があれば、赤文字の所に上記(1)～(5)のような色以外の強調方法が併用されているかどうかを是非チェックしてみてください。

おそらく(5)の書体を変える手法の使用例が多いのではないかと思います。色以外の何らかの手法が併用されていればUDの必要条件を満たしており、単に文字が赤くなっているだけならばUDになっていません。

以上

(第156回: 2016年12月28日)